

## 着生木の伐採で 住民ら県に提言

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の大峯奥駈道のルート上にある十津川村の玉置神社で、ご神木の神代杉に寄生した着生木を神社が伐採したことに関連

し、住民団体のメンバーらが3日県庁を訪れ、「県には世界遺産への認識が欠落している」などとする最終的な提言書を出した。

世界遺産国会議員連盟(代表＝馬淵澄夫衆院議員、約50人)特別顧問の玉置公良・元衆院議員と「奥熊野玉置の世界遺産を守

る会」の原秀雄氏らが松田登志雄・県教育委員会教育次長と面談。県に公開質問状を提出し8月に回答を得たが、「不誠実な内容」として今回の提言となった。

提言は知事と県教育長あて。着生木については世界遺産や歴史学術上の視点など総合的な判断が必要▽県や村、神社の日ごろの連携が重要▽今回の教訓を踏まえたシンポジウムの開催、などとしている。

(菱山出)